

脚折第三自治会
子ども会



市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に



脚折第三自治会子ども会の子ども達

子育て中の親と子どもの学年を超えたつながりを増やすため、かつて解散してしまった子ども会を自治会と協力し、再び立ち上げた「脚折第三自治会子ども会」。

令和6年4月28日(日)に脚折第三自治会子ども会の役員にインタビューを行いました。

●日頃の活動から感じること

現在の会員数は未就学児から中学生まで含め50人程です。

ハイキングや運動会、クリスマス会など年間7回程度の活動を行っています。また、地域に在住の専門家や他団体と共催し、蛍の幼虫放流とタケノコ掘りなども毎年行っています。

今の時代は変化が目まぐるしく、忙しい子どもたちが多くないと感じます。

体を動かすことや自然の中で過ごすことは時代が変わっても子どもには大切なことだと考えて、それらをできるだけ取り入れた活動を行うようにしています。子どもたちにとって子ども会活動がリフレッシュできる居場所のひとつになればいいなと思っています。

●議員に望むこと

子ども会や自治会活動への参加者が減ってきています。多世代の交流の場、近隣・地域住民の関係性づくりの場をつくる手助けをしていただきたいです。相談・要望を直接聞いてくれる住民の窓口的な議員の方がいらっしゃると助かります。

●市議会を身近な存在に

議員の方々も議会以外で様々な活動

な活動をされていることと思いますが、市民への宣伝・アピールをもっと行ったほうが良いと思います。市議会をより身近に感じられる機会を増やしてほしいです。

最近の公園遊具は、健康遊具が多く設置されています。アスレチック施設の整備も含め、子どもたちが楽しく遊べる環境も必要だと思います。

●子ども楽しく遊べるまちへ

最近の公園遊具は、健康遊具が多く設置されています。アスレチック施設の整備も含め、子どもたちが楽しく遊べる環境も必要だと思います。



〈インタビューに参加した脚折第三自治会子ども会の役員の方々〉
坪山玲緒奈さん、町野真由美さん、右岡千恵さん

●地域で子どもに関わること

子ども会のメリットは大人も子どもも近所に顔見知りが増えることです。地域ぐるみで関わってもらった経験が子どもたちにとって財産になり、自分のま

市議会は市民の声を

直接聞きに出かけます！

編集
後記

議会だより8月号を皆様にご協力いただき、無事に発行する事ができました。ありがとうございます。

今号の特集記事「市民と議員の懇談会」を6月に行いました。それぞれ3会場において様々な意見が寄せられました。

市民・団体インタビューでは、地域のこどもの健やかな成長のために活動する「脚折第三自治会子ども会」の皆さんから大切な声をいただきました。

今後も、市民と議会を結ぶ「議会だより」の使命を果たしていけるよう、企画・編集に取り組んでいきたいと思

(広報広聴委員)

委員長 小林ひとみ

副委員長 今野雄一

委員 太田忠芳

委員 小川信茂

委員 村上信吉

委員 福島恵美

委員 高篠雅洋

委員 内野嘉広